

シンポジウム

「“地方”における国民形成と芸能 ～劇場、学校、地域共同体～」

本年度より、熊本大学教育学部音楽科のメンバーを中心に、山鹿市・八千代座の史料研究、そして“地方”での劇場の役割の解明について研究グループを立ち上げました。

年度末となる3月5日(日)には、「地方」における国民形成と芸能～劇場、学校、地域共同体～というテーマでシンポジウムを開催いたします。

基調講演として、国際日本文化研究センター教授で、日本の文化を大衆芸能の観点から研究されている細川周平氏を招聘し「楽器と劇場の近代化～日本の洋楽受容史のなかで」を発表いただき、続くパネル発表には、明治の学校儀式としての音楽の役割について東京藝術大学教授・塚原康子氏、学芸会の役割について静岡文化芸術大学教授・奥中康人氏、そしてイタリアの劇場が果たした役割について熊本大学教育学部・山田高誌氏に登壇いただきながら、国民形成、地域文化形成において劇場、そして学校が果たした役割について討論いたします。どなたでもご参加いただけます。ぜひ、足をお運びください。

文部科学省科学研究費補助事業 基盤B「熊本県山鹿市の歌舞伎(式)劇場・八千代座に関する総合的史料研究」

日時

2017年3月5日(日) 13:00～17:30

会場

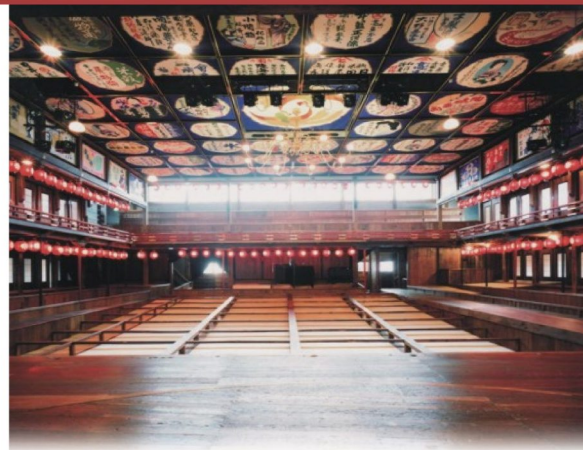
熊本大学 くすのき会館 レセプションルーム
(熊本市中央区黒髪2丁目39-1 熊本大学黒髪北キャンパス)

参加費 無料

どなたでもご参加いただけます(申込不要)

基調講演

「楽器と劇場の近代化
— 日本の洋楽受容史のなかで —
国際日本文化研究センター教授 細川周平



パネル発表

「明治期における国民形成と音楽 — 皇室祭祀・軍の儀礼・学校儀式 —」

東京藝術大学教授 塚原康子

「学芸会で上演された北村季晴作品(叙事唱歌・お伽歌劇)と国民形成」

静岡文化芸術大学教授 奥中康人

「イタリアの“地方”劇場の役割:ナポリの愛国的オペラの上演をめぐる」

熊本大学准教授 山田高誌

「山鹿・熊本の学芸会の演目にみる学芸会の機能(演目の一部を再現演奏)」

熊本大学教授 國枝春恵
熊本大学准教授 山崎浩隆